

■高島嘉右衛門 実業家, 易学家。維新直後に横浜の基盤整備事業をして高島町に名を遺し, “高島易断”の開祖にも。

たかしまかえもん

鼠小僧磔・1832= 江戸三十間堀で, 材木商兼建築請負業薬師寺嘉兵衛の六男に生まれる。

大塩平八郎乱1837= 5歳:

父は教育熱心であったが, 商人であったため, 子どもを武士の学校に入れることができず, やむなく独学して教授した。

天保改革始・1841= 9歳:

阿部正弘首座1845=13歳:

国定忠治磔・1850=18歳: 父が死去し, 店を継ぐ。

ペリー来航・1853=21歳:

安政の大獄・1859=27歳: 横浜開港とともに, 横浜太田町に商店を開き外国貿易を企てたが, 莫大な赤字を出し,
桜田門外変・1860=28歳: その処理のため幕府禁止の金銀貨売買をして, 自首し入獄。責任は自分で負い仲間を釈放させる。
入牢中に妻が死去。_厳しい牢獄の中で易書を見つけ, 暗唱するほど学習。

薩摩藩士密航1865=33歳: 釈放されて実業界に復帰し, 居を横浜に移して精力的に活動を開始。

薩長同盟・1866=34歳: 材木商兼建築請負店を開業して, イギリス公使館を建設。

大政奉還・1867=35歳: 灯台寮を建設。

明治維新・1868=36歳:

戊辰戦争終・1869=37歳: *内外要人のための大旅館の経営を始め, またたく間に巨額の財産を築く。

初の日刊新聞1870=38歳: _3万円を投じて, 私塾藍謝堂(のちの高島学校)を開設し, 新橋~横浜間鉄道敷設が決定すると,

廃藩置県・1871=39歳: _その障害となる入江を埋め立て, 鉄道用地を献納し, 残余を道路とともに整備した(高島町となる)。

学問のすすめ1872=40歳: _横浜のガス灯建設事業の権利をドイツの会社と争って取得。ガス製造所工場落成して, 県庁他に点灯。

明治6年政変 1873=41歳:

三つの反乱・1876=44歳: *実業界から引退の決意を固め, 大綱山に隠棲して獄中で着手した易の研究に打ち込むが,

西南戦争・1877=45歳:

その間, 早くから必要性を力説していた東北線の建設に向けて,

明治14年政変1881=49歳: 日本鉄道会社が設立された。

帝国大学始・1886=54歳:

帝国憲法発布1889=57歳:

足尾鉍毒始・1891=59歳: 横浜瓦斯局を横浜市に引渡す。

大本教・1892=60歳: _北海道炭礦鉄道会社社長の堀基が退職した際, 懇請されて社長に就任。

また石狩十勝地方に高島農場を開拓するなど, 多くの会社の経営者を兼ねて活動した。

日清戦争始・1894=62歳: *退任とともに, 「高島易断」を著し, 呑象と号してその開祖となった。

日清戦争終・1895=63歳:

易占を請う者が, 多数その門戸を訪れたといわれる。

日比谷公園・1903=71歳: 東京市街鉄道会社社長となる。

日露戦争始・1904=72歳:

日露戦争終・1905=73歳:

明治天皇没・1912=80歳:

大正政変・1913=81歳:

第一次大戦始1914=82歳: 危篤に際し従五位に叙せられたのち, _没した。

易学家としての高島は, 日清・日露両戦争の経過に関する予言, 伊藤博文の暗殺予言などで盛名を高め, 易聖と仰がれた。また, みずからの死を月日にいたるまで予知したと伝えられる。

「人づくり風土記(神奈川)」, 「この人どんな人」, 平凡社百科事典,